

## 人はそれぞれがうんだ

弘前市立福村小学校 小沢 遥輝

「今日は空の絵をかきましょう」と言われたら、どんな空を思い浮かべますか。

ぼくは、海にはるか遠くまで広がる、雲ひとつないまっ青な空を思い浮かべました。

たぶん、青い空を想った人が多いと思います。

ぼくが読んだ、『おれは女の子だ』という本の主人公すばるは、絵がとくいで、きれいなものが大好きな男の子です。

すばるは、ピンク色が一番好きなので、空の絵をピンク色でぬりました。それを見たクラスメイトの鈴木くんが「空がピンクなんてへんだ。ピンクなんて女の子みたいだ。」と言ったので、「先生が見たことのない空の絵をかいてもいいって言ったから、好きな色でぬっているんだ。」とせつめいしました。でも鈴木くんは何どもしつこくからかいます。頭にきたすばるは思わず「そうだよ、おれは女の子だよ。」とせんに言してしまいます。でも、となりのせきの女の子の川崎さんは、すばるの味方になってくれました。

ぼくも、学校の友だちにいやなことをしつこく言われたことを思い出して、いやな気持ちになりました。

次の日、せつかく味方になってくれた川崎さんに、「きれいじゃない」とすばるはひどいことを言って泣かせてしまいます。そのことをお姉ちゃんに話したら、すぐくおこられて女の子の気もちを知るためにスカートをはいて学校へ行かされました。

そして、バカにする人や、かばってくれる人がいて、相手の気もちを想うすることが大切だと気づいていきました。

もし、自分のクラスメイトがスカートをはいてきたら、たぶんほかの人がわらってバカにしていたら、ぼくも相手の気もちを考えずにいつしよになつてわらってしまうと思います。でも、この本を読んで、人によって好きなものや考えはちがうのだと気づきました。なかなか人の気もちを考えるのは、むずかしいことだけど、相手の気もちを想うことで自分はどう思うからこうだときめつけなくて、思いやりをもって行動

できる人になりたいと思いました。